

亀岡市国民健康保険
第2期保健事業実施計画（データヘルス計画）
中間評価

令和3年3月
亀岡市国民健康保険

-目次-

第1章 計画の概要		
	1.計画策定の趣旨と位置づけ	1
	2.計画の期間	1
第2章 中間評価の実施内容		
	1.中間評価の目的	2
	2.中間評価の方法	2
第3章 亀岡市の現状		
	1.人口推移	3
	2.平均自立期間の推移	4
	3.亀岡市国民健康保険の状況	4
第4章 医療の状況		
	1.1人当たりの費用額	5
	2.疾病別1人当たり点数（大分類）	5
	3.疾病別医療費の占める割合	6
	4.患者千人当たり生活習慣病患者数	6
第5章 計画全体の評価		7
第6章 重点的に取り組むべき保健事業個別評価		
	1.特定健診	8
	2.特定健診未受診者受診勧奨	11
	3.特定保健指導	14
	4.健診異常値放置者受診勧奨	17
	5.糖尿病予備群対策	20
	6.糖尿病治療中断者受診勧奨	22
	7.糖尿病腎症重症化予防（糖尿病サポート事業）	24
	8.重複多受診者指導	28
	9.重複服薬者通知事業	30
	10.健康ポイント事業	32
第7章 その他の保健事業評価		34
第8章 計画の評価と今後の予定		
	1.計画の評価	35
	2.今後について	35

第1章 計画の概要

1. 計画策定の趣旨と位置づけ

国の「日本再興戦略」を受け、平成26年3月に保健事業指針の一部が改正されました。これに基づき、すべての保険者は、健康・医療情報を活用してPDCAサイクルに沿った効果的かつ効率的な保健事業の実施を図るため、保健事業の実施計画（データヘルス計画）を策定し、実施することになりました。

亀岡市においても、平成30年度に6年間の計画である「第2期保健事業計画（データヘルス計画）」（以下「本計画」という）を策定するとともに本計画を推進しています。

本計画は健康増進法に基づく国の「健康日本21」の基本的な方針である健康寿命の延伸と健康格差の縮小等を踏まえるとともに、京都府の「きょうとすこやか21」亀岡市の「かめおか健康プラン21」、「特定健康診査等実施計画」等との整合性を図っています。

2. 計画の期間

本計画の計画期間は、「国民健康保険法に基づく保健事業の実施等に関する指針」第4の5において、「特定健康診査等実施計画及び健康増進計画との整合性を踏まえ、複数年とすること」とされていることから、第3期特定健康診査等実施計画期間である平成30年度から令和5年度の6年間としています。

平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
亀岡市特定健康診査等実施計画(第2期)					第2期亀岡市国民健康保険保健事業実施計画 第3期亀岡市特定健康診査等実施計画					
			亀岡市国民健康保険 データヘルス計画 (第1期)				中間評価			最終評価

第2章 中間評価の実施内容

1. 中間評価の目的

平成29年度に「亀岡市国民健康保険第2期保健事業実施計画（データヘルス計画）」を策定しました。策定後、人口減少や高齢化など被保険者を取り巻く環境は変化しています。

令和2年1月以降には、世界中における新型コロナウイルスの感染拡大等が人々の健康意識や生活様式を見直す機会となり、健康やあらゆる分野に影響を及ぼしています。

この状況を踏まえ、計画策定時に設定された目標について、計画期間の中間年にあたる令和2年度における目標の達成度を確認し、取り組みの成果を検証します。評価した結果に基づいて、計画期間後半における保健事業計画を必要に応じて見直し、被保険者の一人ひとりの健康保持増進を図り、効果的かつ効率的な保健事業の実施を図ることとします。

2. 中間評価の方法

保健事業ごとに設定した目標のうち、アウトプット、アウトカムについて評価を行います。重点的に取り組む保健事業計画については、個別評価を行います。評価については、指標ごとに、ベースラインと実績値を比較した評価（指標判定）と事業全体としての総合評価（事業判定）を行います。

指標判定区分	
a	改善している
b	変わらない
c	悪化している
d	評価困難

事業判定区分	
A	うまくいっている
B	まあ、うまくいっている
C	あまりうまくいっていない
D	まったくうまくいっていない
E	わからない

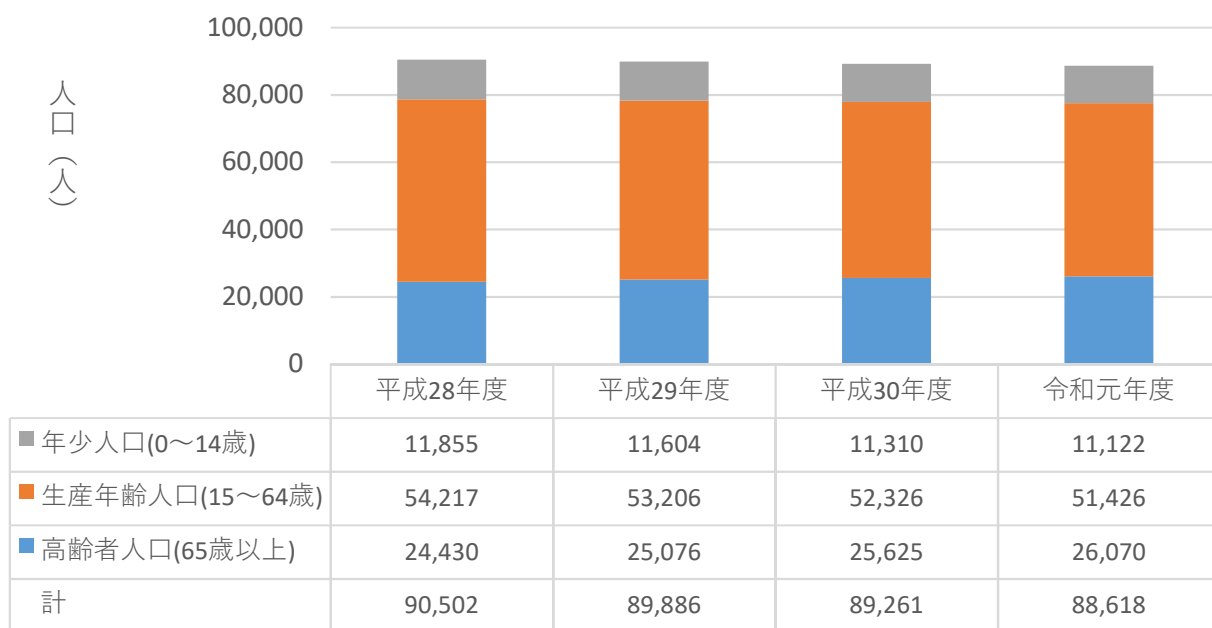
第3章 亀岡市の現状

1.人口推移

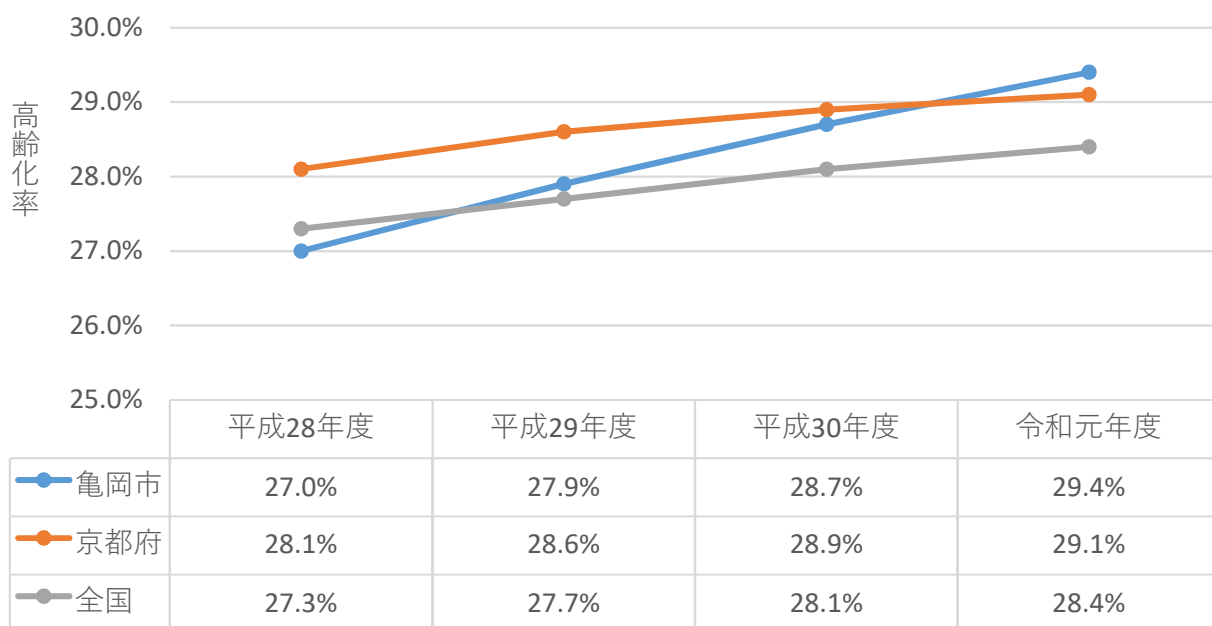
亀岡市の人口は令和元年10月1日現在で、88,618人となっており、減少が続いています。年齢区別にみると、年少人口、生産年齢人口は減少していますが、高齢者人口は増加しています。

亀岡市の高齢化率は、令和元年度には、全国、京都府平均に比べて高くなり、29.4%となっています。

亀岡市人口推移（各年10月1日現在）

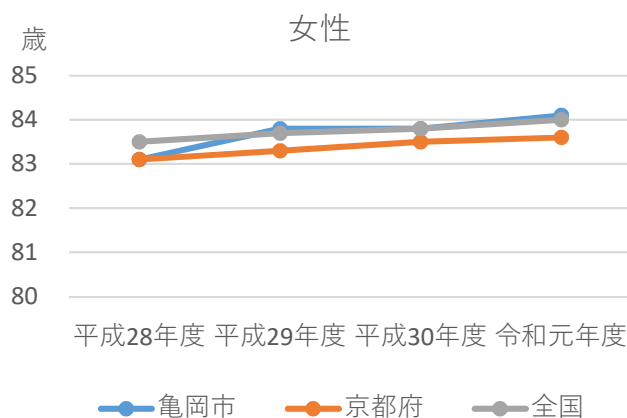
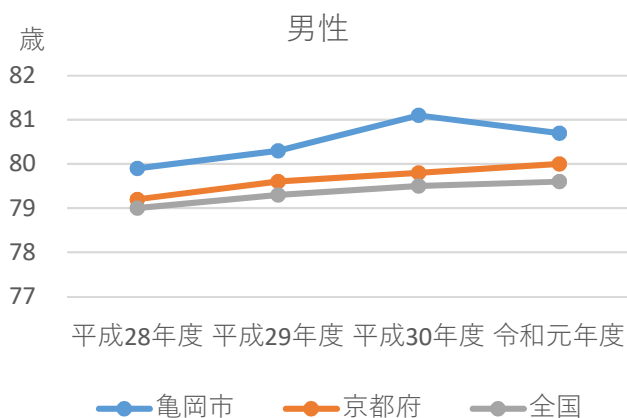


高齢化率の推移（各年10月1日現在）



3.平均自立期間の推移

亀岡市の平均自立期間（要介護2以上）は、男性では、京都府平均、全国に比べて高い状況です。女性については、年々上昇していますが、ほぼ全国と同じ状況です。

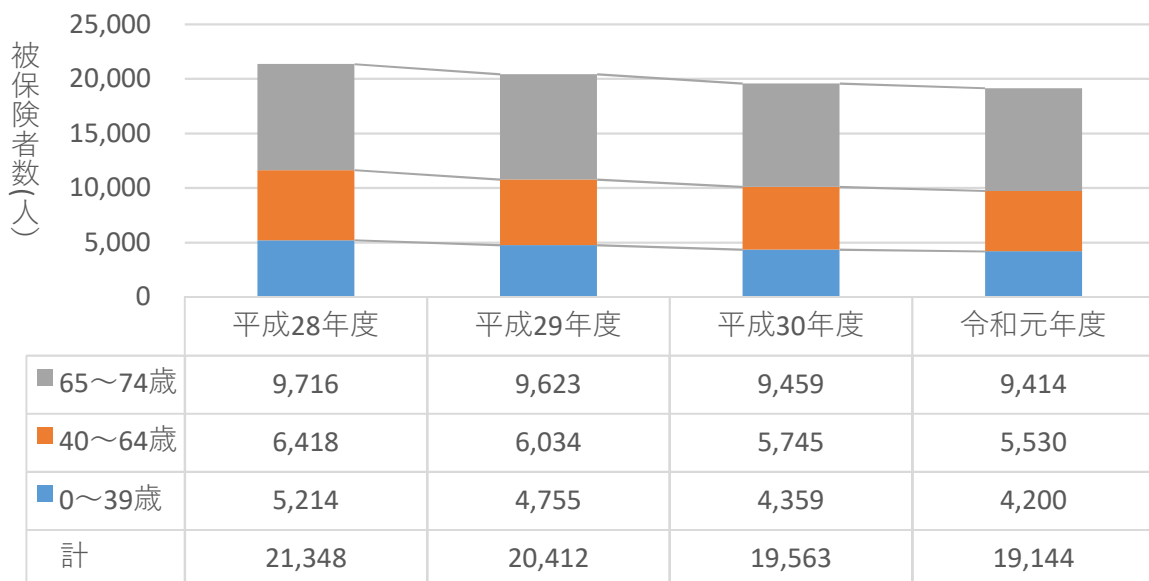


※KDB:地域全体の把握より

3.亀岡市国民健康保険の状況

亀岡市国民健康保険被保険者数は、年々減少しています。しかし、65～74歳の割合は、年々増加しており、令和元年度は49.20%となっています。

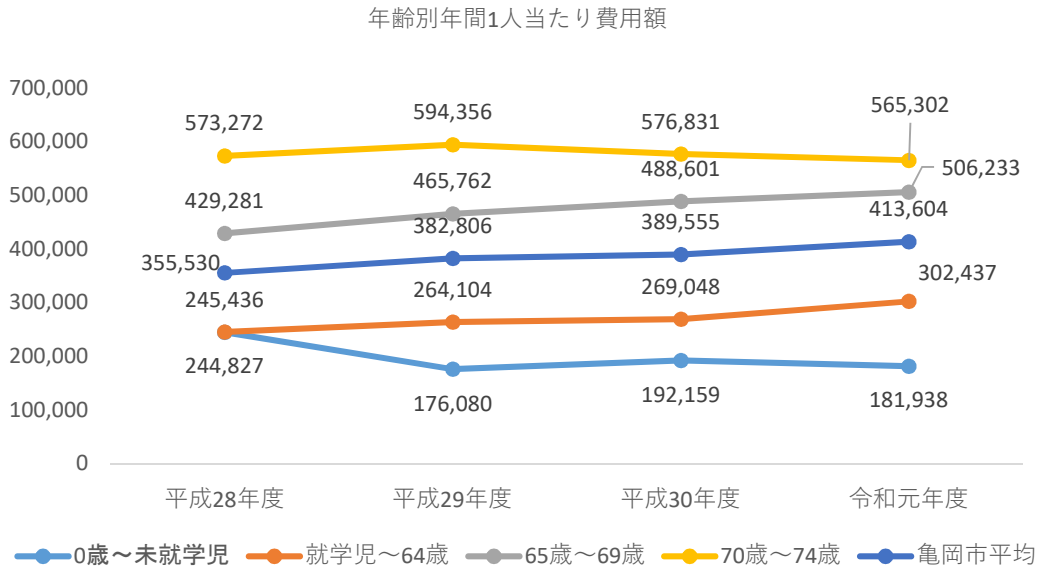
国保加入率（各年3月31日現在）



第4章 医療の状況

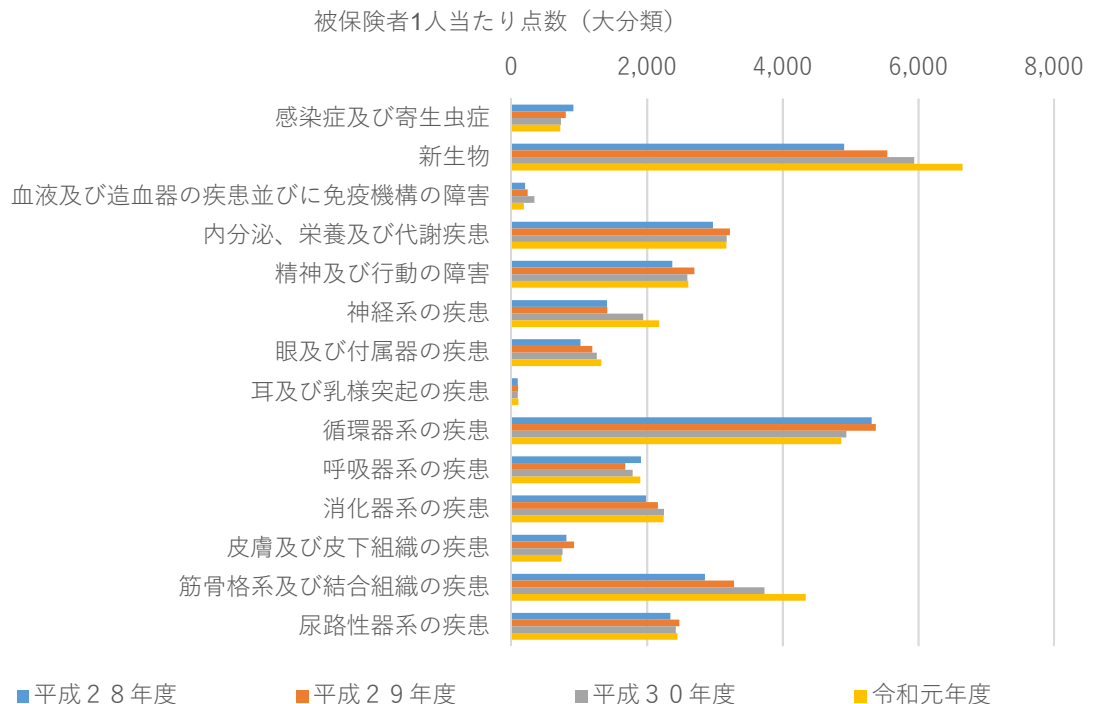
1.1 人当たりの費用額

1人当たりの費用額とその推移です。亀岡市平均は年々増加しています。年齢別にみると、0～未就学児、70～74歳は減少していますが、その他の年齢では増加しています。



2. 疾患別1人当たり点数（大分類）

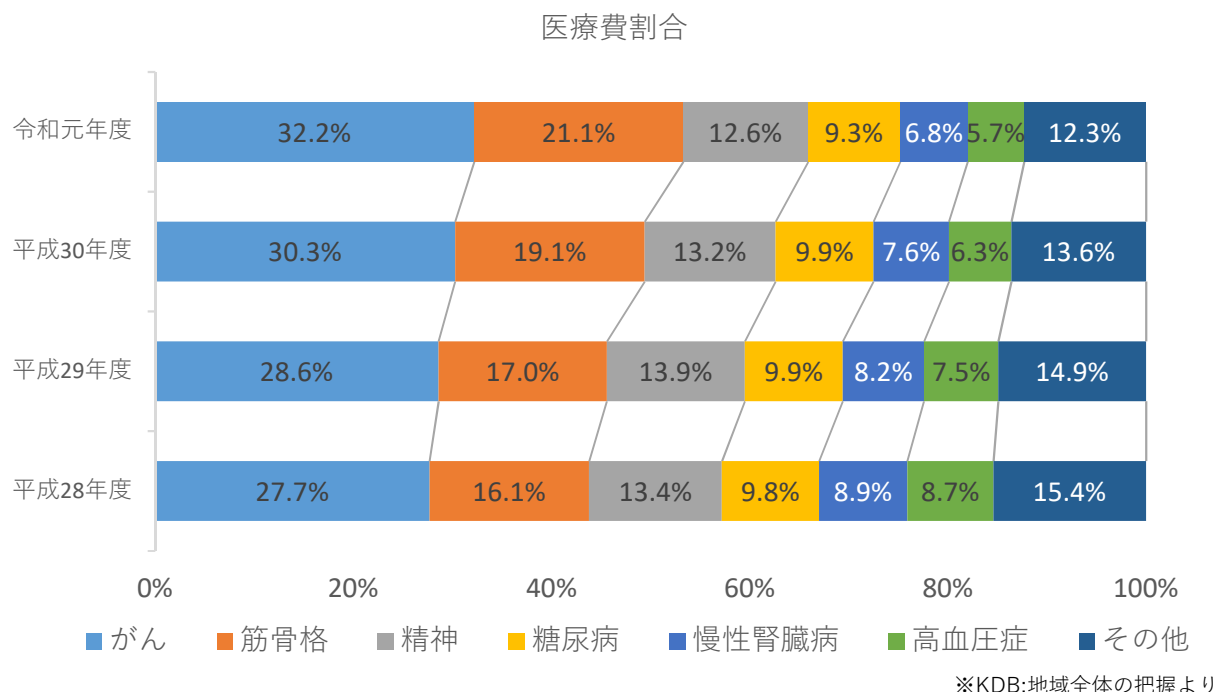
亀岡市の疾患別1人当たり点数の推移です。新生物、筋骨格系、神経系は年々増加しています。循環器系は減少傾向ですが、新生物について高い点数です。内分泌系、精神、眼、消化器系はやや増加傾向です。



※KDB:疾病別医療費分析（大分類）より

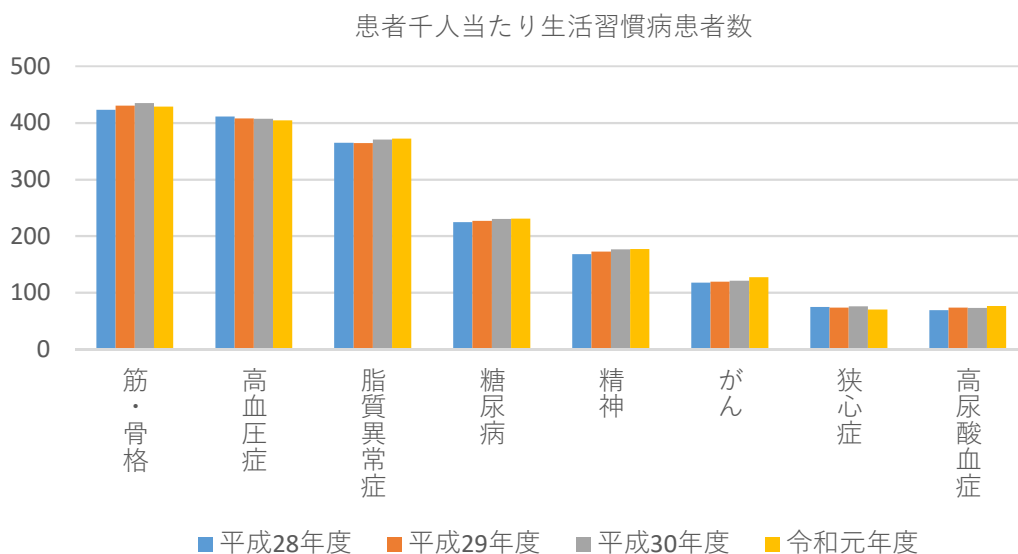
3.疾患別医療費の占める割合

亀岡市の疾患別医療費の割合です。がんが最も高く、ついで筋骨格、精神が高い状況です。令和元年度には、がんや筋骨格の医療費の占める割合が高くなっており、高血圧症は減少しています。



4.患者千人当たり生活習慣病患者数

亀岡市の患者千人当たり生活習慣病患者数の推移です。高血圧症、狭心症は減少傾向ですが、筋骨格、脂質異常症、糖尿病、精神、がん、高尿酸血症は増加傾向です。



第5章 計画全体の評価

計画策定時の計画の方向性・目的	各保健事業を通して、生活習慣病の予防と重症化予防等を通じて、健康寿命の延伸及び医療費の適正化を図る		
主な指標	目標値	ベースライン	経年変化
平均自立期間	延伸	平成28年度 男性：79.9年 女性：83.1年	平成29年度 男性：80.3年 女性：83.8年 平成30年度 男性：81.1年 女性：83.8年 令和元年度 男性：80.7年 女性：84.1年
1人当たり医療費	減少	平成28年度 355,530円	平成29年度 382,806円 平成30年度 389,555円 令和元年度 413,604円
指標評価のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 平均自立期間は、男性では横ばい、女性は伸びている。1人当たりの費用額は年々増加傾向であり、65歳～69歳の費用額が増加している。 疾患別では、循環器系は減少しているが、がんや筋骨格系が増加している。 特定健診の受診率が低い。特定保健指導の実施率は伸びているが、京都府平均に比べて低い状況である。 		
うまくできている点	<ul style="list-style-type: none"> 糖尿病重症化予防事業を衛生部門（保健師）や市医師会と連携して実施できるようになった。 特定保健指導は、集団指導を始めたことにより、マンパワーの不足を補うことができ、利用者も増えてきた。 		
うまくいっていない点	<ul style="list-style-type: none"> 集団セット健診を受診する人が増加したが、個別健診の受診者が増えず、特定健診の受診率が伸びない。 糖尿病重症化予防事業、特定保健指導などの参加者が少ない。 地域包括ケアとの連携や一体的実施ができていない。 年度ごとの評価が出来ておらず、具体的な対策等が立てられていない。 		
主な見直しと今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 保健事業の実施は引き続き取り組む。 特定健診受診率向上の対策を検討する。 市医師会、庁内他部署との連携を図る。 年度ごとの評価、最終評価に向けた準備を行う。 		

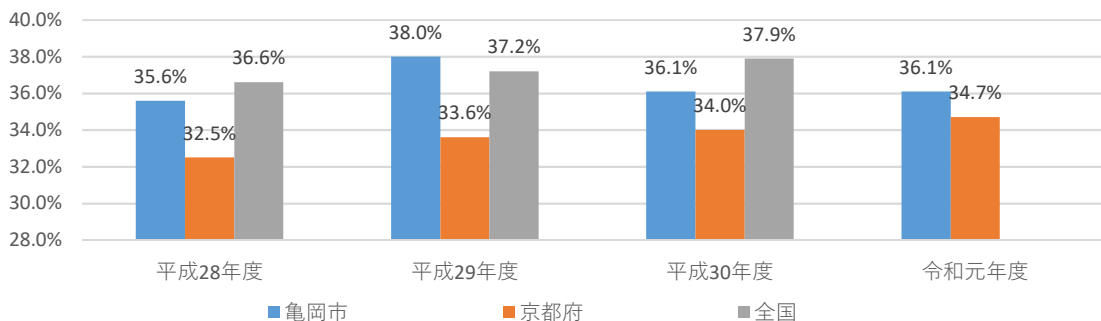
第6章 重点的に取り組むべき保健事業個別評価

1. 特定健診

(1) 事業内容

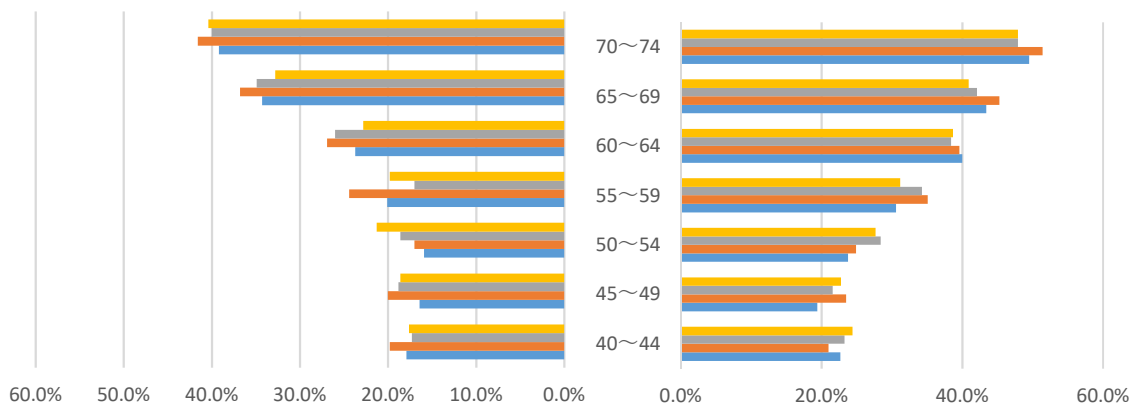
背景	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診の受診率は、平成28年度は35.6%、平成29年度は38.0%と増加したが、平成30年度は36.1%、令和元年度は36.1%と減少し、平成35年度の目標値の46%を達成できていない。 ・京都府平均より高いが、全国平均に比べて低い。 ・特定健診受診勧奨者の受診率は、平成28年度は28.4%、平成29年度は26.9%、平成30年度は21.4%、令和元年度は19.2%と減少している。
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診の受診率向上 ・メタボリックシンドロームの早期発見による生活習慣病予防
具体的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・40歳から74歳の人を対象とし、特定健診を実施 ・個別健診、集団セット健診（がん検診とのセット）を実施 実施時期 個別：6月～10月 集団：9月～11月 ・対象者に特定健診受診券を個別送付（5月） 集団セット健診の申込書を同封 ・広報紙、ホームページに掲載（5月）
指標 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診受診券個別送付率 ・集団セット健診の実施回数 ・特定健診受診率

特定健診受診率



男性

女性



■ 令和元年度 ■ 平成30年度 ■ 平成29年度 ■ 平成28年度

※特定健診・特定保健指導法定報告結果より

(2)評価と見直し・改善策

評価指標	特定健診受診券個別送付率 集団セット健診の実施回数	特定健診受診率
アウトプット・アウトカム	アウトプット	アウトカム
目標値	100% 回数増加	46%
ベースライン (H28年度)	100% -	35.6% 対象者15,046人 受診者5,358人
経年変化	H29年度	100% 4回 38.0% 対象者14,501人 受診者5,509人
	H30年度	100% 7回 36.1% 対象者14,081人 受診者5,083人
	R元年度	100% 8回 36.1% 対象者13,746人 受診者4,956人
指標判定	C	C
事業判定	C	
うまくいった要因	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診とがん検診のセット健診の実施を開始し、受診機会を拡充 ・平成29年度の受診率上昇の要因は、集団セット健診の開始、受診勧奨通知の内容を受診歴の有無別に作成し送付したためか。 	
うまくいかなかった要因	<ul style="list-style-type: none"> ・40歳代、50歳代の受診率が低い。紙媒体の広報だけでは不十分 ・集団セット健診の申込方法が複雑（申込内容により申込窓口が異なる） ・平成30年度の受診率減少は、自然災害によるものか。 	
見直しと改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・セット健診の申込窓口の一本化 ・申込用パンフレットの見直し ・申込用パンフレットの配布時期、申込期限の見直し ・受診勧奨通知の内容、実施時期の見直し ・受診勧奨通知時期に合わせて、個別医療機関に受診勧奨ポスター貼付を依頼 ・特定健診受診率目標値について、現状との乖離が激しいため修正（平均伸び率が1%未満のため、目標値を1%ずつ上昇する段階的な値に設定） 	

(3)今後の事業計画

具体的な 事業内容	<p>【特定健診】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・40歳から74歳の人を対象とし、特定健診を実施。 ・個別健診、集団セット健診（がん検診とのセット）を実施 実施時期 個別：6月～10月 集団：9月～11月 ・対象者に特定健診受診券を個別送付（5月） 集団セット健診の申込書を同封 ・広報紙、ホームページに掲載（5月） 			
	評価指標		目標値	
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
ストラクチャー	各健診担当課との連携ができたか 予算の配分は適当であったか マンパワーの確保ができたか 特定健診受診券送付時期は妥当か 受診勧奨通知時期は妥当か	各健診担当課との連携ができたか 予算の配分は適当であったか マンパワーの確保ができたか 特定健診受診券送付時期は妥当か 受診勧奨通知時期は妥当か		
プロセス	特定健診受診券の送付時期は適当であったか 申込方法はわかりやすかったか 受診勧奨通知時期は適当であったか 受診勧奨内容は適当であったか	特定健診受診券の送付時期は適当であったか 申込方法はわかりやすかったか 受診勧奨通知時期は適当であったか 受診勧奨内容は適当であったか		
アウト	特定健診受診券個別送付率 集団セット健診の実施回数	100% 8回	100% 8回	100% 8回
アウトカム	特定健診受診率	37%	38%	39%
年度計画	令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・広報内容の見直し（SNS利用） ・セット健診の申込方法、案内パンフレットの見直し。申込窓口の一本化。セット健診の日程調整 ・個別健診の実施 ・受診勧奨通知の実施と内容見直し 		
	令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・継続実施 		
	令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> ・継続実施 		

2. 特定健診未受診者受診勧奨

(1) 事業内容

背景	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診の受診率は、平成28年度は35.6%、平成29年度は38.0%と増加したが、平成30年度は36.1%、令和元年度は36.1%と減少し、平成35年度の目標値の46%には達成できていない。京都府平均より高いが、全国平均に比べて低い。 ・特定健診受診勧奨者の受診率は、平成28年度は28.4%、平成29年度は26.9%、平成30年度は21.4%、令和元年度は19.2%と減少している。
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診の受診率向上 ・メタボリックシンドロームの早期発見による生活習慣病予防
具体的な事業内容	<p>【特定健診】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・40歳から74歳の人を対象とし、特定健診を実施 ・個別健診、集団セット健診（がん検診とのセット）を実施 <p>【特定健診未受診者受診勧奨】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定健診未受診者に受診勧奨はがきを送付（2種類） 受診率の向上が見られないため、内容については例年変え実施 ※H28（年齢別）、H29（受診歴の有無別）、H30（男女別）、R1（有料無料別） ※実施時期：特定健診開始後2カ月後（8月） ・集団健診（特定健診のみ）の追加募集を実施（受診勧奨通知、市広報紙、ホームページで募集） ・電話勧奨は、人員の確保等の調整が出来ず未実施ため、他の勧奨手段へ変更予定
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者への通知率 ・特定健診受診率 ・未受診者（受診勧奨者）受診率

(2)評価と見直し・改善策

評価指標		受診勧奨通知率	特定健診受診率	受診勧奨者受診率
アウトプット・アウトカム		アウトプット	アウトカム	アウトカム
目標値		100%	46%	30%
ベースライン (H28年度)		100%	35.6% 対象者15,046人 受診者5,358人	28.4%
経年変化	H29年度	100%	38.0% 対象者14,501人 受診者5,509人	26.9%
	H30年度	100%	36.1% 対象者14,081人 受診者5,083人	21.4%
	R元年度	100%	36.1% 対象者13,746人 受診者4,956人	19.2%
指標判定		b	c	c
事業判定		C		
うまくいった要因		<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診とがん検診のセット健診の実施を開始し、受診機会を拡充 ・平成29年度の受診率上昇の要因は、集団セット健診の開始、受診勧奨通知の内容を受診歴の有無別に作成し送付したため 		
うまくいかなかった要因		<ul style="list-style-type: none"> ・毎年の受診勧奨通知の内容の評価を実施する必要があった。 ・集団セット健診の申込方法が複雑（申込内容により申込窓口が異なる） 		
見直しと改善策		<ul style="list-style-type: none"> ・セット健診の申込窓口の一本化 ・申込用パンフレットの見直し ・申込用パンフレットの配布時期、申込期限の見直し ・受診勧奨通知の内容、実施時期の見直し ・受診勧奨通知時期に合わせて、個別医療機関に受診勧奨ポスター貼付を依頼 ・特定健診受診率目標値について、現状との乖離が激しいため修正（平均伸び率が1%未満のため、目標値を1%ずつ上昇する段階的な値に設定） ・受診勧奨者受診率は減少しているため、目標値は1%ずつ上昇する段階的な値に設定 ・評価指標名を事業内容にあわせて、受診勧奨通知率、受診勧奨者受診率に変更 		

(3)今後の事業計画

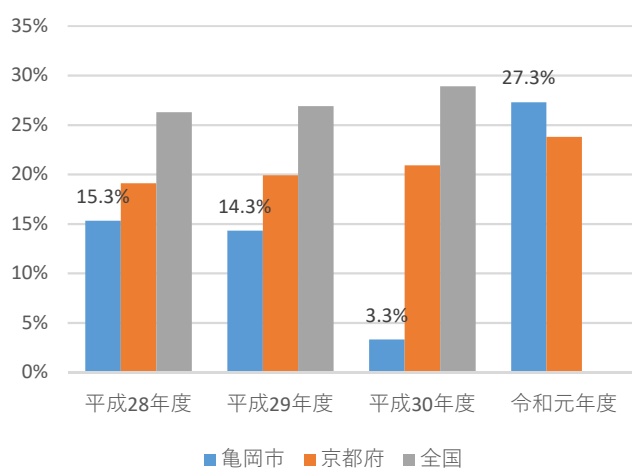
具体的な事業内容	<p>【特定健診】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者（40～74歳） ・個別健診と集団セット健診（がん検診と特定健診）の実施 <p>実施時期：個別健診（6月～10月）集団セット健診（9月～11月）</p>			
	<p>【特定健診未受診者受診勧奨】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定健診未受診者に受診勧奨通知を送付（2種類）実施時期：8月 ・電話勧奨は、人員の確保等の調整が出来ず未実施。受診勧奨時期に個別医療機関にポスター等の啓発を依頼 ・集団健診（特定健診のみ）の追加募集を実施（受診勧奨通知、市広報紙、ホームページで募集） 			
評価指標		目標値		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
ストラクチャー	各健診担当課との連携ができたか 予算の配分は適当であったか マンパワーの確保ができたか 受診勧奨通知時期は妥当か	各健診担当課との連携ができたか 予算の配分は適当であったか マンパワーの確保ができたか 受診勧奨通知時期は妥当か		
プロセス	特定健診の案内時期が適当であったか 申込方法はわかりやすかったか 対象者の抽出が確実にできたか 受診勧奨通知時期は適当であったか 受診勧奨内容は適当であったか 勧奨後の受診状況が把握できたか	特定健診の案内時期が適当であったか 申込方法はわかりやすかったか 対象者の抽出が確実にできたか 受診勧奨通知時期は適当であったか 受診勧奨内容は適当であったか 勧奨後の受診状況が把握できたか		
プアット	受診勧奨通知率	100%	100%	100%
アウトカム	特定健診受診率 受診勧奨者受診率	37% 20%	38% 21%	39% 22%
年度計画	令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・セット健診の申込方法、案内パンフレットの見直し。申込窓口の一本化 ・セット健診の日程調整 ・個別健診の実施 ・受診勧奨通知の実施と内容見直し 		
	令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・継続実施 		
	令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> ・継続実施 		

3.特定保健指導

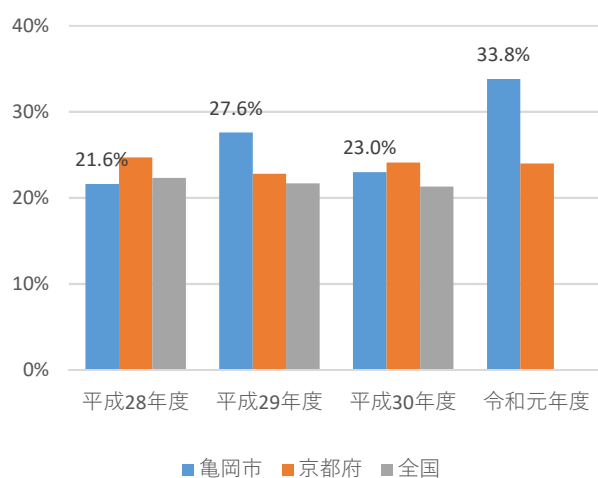
(1)事業内容

背景	<ul style="list-style-type: none"> ・特定保健指導実施率は、平成28年度15.3%、平成29年度は14.3%、平成30年度は3.3%、令和元年度は27.3%と目標値の28%を達成していない。全国平均、京都府平均に比べて低い。 ・特定保健指導による特定保健指導対象者減少率は、令和元年度33.8%と増加している。 ・個別による特定保健指導を実施していたが、平成28年度から集団保健指導を開始し、実施率が増加したが、その後は減少している。
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・特定保健指導実施率の向上 ・生活習慣病該当者及び予備群の減少
具体的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診の結果から特定保健指導対象者を選定し、利用券を送付 ・市保健師、管理栄養士による生活習慣改善のための保健指導を実施 <p>実施時期：個別指導：健診受診後から随時 集団指導：月1回 （初回、最終面談を集団で行い、それ以外は個別面談、電話指導）</p>
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・特定保健指導実施率・実施者数 ・特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率

特定保健指導実施率の推移



特定保健指導による特定保健指導対象者減少率の推移



※特定健診・特定保健指導法定報告結果より

(2)評価と見直し・改善策

評価指標		特定保健指導実施率	特定保健指導による 特定保健指導対象者減少率
アウトプット・アウトカム		アウトプット	アウトカム
目標値		28%	30%
ベースライン (H28年度)		15.3%	21.6%
経年変化	H29年度	14.3%	27.6%
	H30年度	3.3%	23.0%
	R元年度	27.3%	33.8%
指標判定		b	b
事業判定		B	
うまくいった要因		<ul style="list-style-type: none"> ・集団保健指導を開始したことにより、日程が指定できたこと、利用券送付時に返信用のはがきを同封したことが申し込みやすくしたのか。 ・集団保健指導を実施したことで、マンパワー不足の解消だけでなく、保健師のスキルの差がなくなった。 	
うまくいかなかった要因		<ul style="list-style-type: none"> ・リピーターの利用者多い。 ・利用券送付時期が受診後から時間がたっている。 ・利用券送付、案内のマンネリ化で申込者が増加しない。 ・効果がでない対象者への指導がうまくいかない。 	
見直しと改善策		<ul style="list-style-type: none"> ・申込方法、時期の見直し ・集団保健指導の内容見直し、評価の実施 ・改善が見られないリピーターへの指導内容、方法の見直し ・専門職のスキルアップ（研修参加） ・評価指標の特定保健指導実施率は、次年度に法定報告が公表されるため、特定保健指導利用者数を追加する。 ・評価指標は、平成30年度の実績が低いいため、変更しない。 	

(3)今後の事業計画

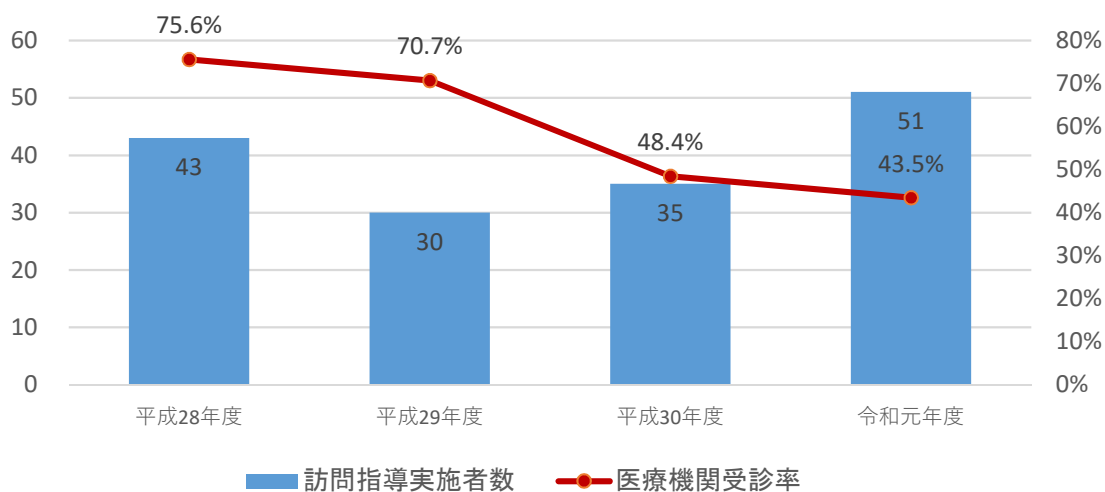
<p>具体的な事業内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診の結果から特定保健指導対象者を選定し、利用券を送付 ・市保健師、管理栄養士による生活習慣改善のための保健指導を実施 <p>実施時期：個別指導：健診受診後から随時 集団指導：月1回（初回、最終面談を集団で行い、あとは個別面談、電話指導）</p>			
<p>評価指標</p>		<p>目標値</p>		
		<p>令和3年度</p>	<p>令和4年度</p>	<p>令和5年度</p>
<p>ストラクチャー</p>	<p>各担当課との連携ができたか 予算の配分は適当であったか マンパワーの確保ができたか 集団保健指導の日程は妥当か</p>	<p>各担当課との連携ができたか 予算の配分は適当であったか マンパワーの確保ができたか 集団保健指導の日程は妥当か</p>		
<p>プロセス</p>	<p>利用券案内時期が適当であったか 申込方法はわかりやすかったか 対象者の抽出が確実にできたか 保健指導の内容は適当であったか 実施後の評価ができたか</p>	<p>利用券案内時期が適当であったか 申込方法はわかりやすかったか 対象者の抽出が確実にできたか 保健指導の内容は適当であったか 実施後の評価ができたか</p>		
<p>アウト</p>	<p>特定保健指導実施率 利用者数</p>	<p>28% 120人</p>	<p>28% 120人</p>	<p>28% 120人</p>
<p>アウトカム</p>	<p>特定保健指導による 特定保健指導対象者減少率</p>	<p>30%</p>	<p>30%</p>	<p>30%</p>
<p>年度計画</p>	<p>令和3年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診の結果から特定保健指導対象者を選定し、利用券を送付 ・市保健師、管理栄養士による生活習慣改善のための保健指導を実施 <p>実施時期：個別指導：健診受診後から随時 集団指導：月1回 （初回、最終面談を集団で行い、それ以外は個別面談、電話指導）</p>		
<p></p>	<p>令和4年度</p>	<p>・継続実施</p>		
<p></p>	<p>令和5年度</p>	<p>・継続実施</p>		

4.健診異常値放置者受診勧奨

(1)事業内容

背景	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診受診者のうち、半数以上が医療機関への受診勧奨対象者となっており、年々増加している。（平成28年度56.1%、平成29年度56.0%、平成30年度60.0%、令和元年度59.0%） ・医療費の状況では、高血圧症、糖尿病、腎不全が高い。 ・患者数は、筋骨格、高血圧症、脂質異常症、糖尿病が多く、令和元年度は、脂質異常、糖尿病が増加しており、生活習慣病予防が必要 ・受診勧奨対象者の受診率は減少している。令和元年度は新型コロナ感染症拡大防止のため電話勧奨を実施
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・健診異常値を放置している対象者への医療機関への受診勧奨 ・生活習慣病重症化予防
具体的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診の結果から、異常値がある対象を選定し、医療機関受診の有無を確認 ・受診を確認できない対象者へ受診勧奨通知を送付 ・送付後2～3カ月後にレセプトにて受診の有無を確認 ・受診がない対象に訪問指導を実施 ・実施後、レセプトにて受診の有無を確認
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者への通知率・訪問指導実施者数 ・医療機関受診率

医療機関受診率と訪問指導実施者数の推移



(2)評価と見直し・改善策

評価指標	対象者への通知率 訪問指導実施者数	医療機関受診率
アウトプット・アウトカム	アウトプット	アウトカム
目標値	100% 50人	90%
ベースライン (H28年度)	100% 43人	75.6%
経年変化	H29年度	100% 30人
	H30年度	100% 35人
	R元年度	100% 51人
指標判定	b	d
事業判定	C	
うまくいった要因	<ul style="list-style-type: none"> ・受診勧奨通知に健診経年結果を同封した。 ・訪問指導により、食事の状況などの聞き取りを行うことで、生活習慣の見直しの必要性や医療機関受診の緊急性を感じてもらえた。 	
うまくいかなかった要因	<ul style="list-style-type: none"> ・健診結果の見方などの情報提供が不十分だった。 ・訪問指導時、不在者が多かった。 ・新型コロナ感染症のため、受診控えがあった。 	
見直しと改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・受診勧奨通知、訪問指導実施時期の評価 ・通知内容の見直し ・医療機関受診率は、減少傾向にあり、目標値について、現状との乖離が激しいため修正 (医療機関受診率は、令和元年度を基準に目標値を修正) 	

(3)今後の事業計画

<p>具体的な 事業内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診の結果から、異常値がある対象を選定し、医療機関受診の有無を確認 ・受診を確認できない対象者へ受診勧奨通知を送付 ・送付後2～3カ月後にレセプトにて受診の有無を確認 ・受診がない対象に訪問指導を実施 ・実施後、レセプトにて受診の有無を確認 			
<p>評価指標</p>		<p>目標値</p>		
		<p>令和3年度</p>	<p>令和4年度</p>	<p>令和5年度</p>
<p>ストラクチャー</p>	<p>予算の配分は適当であったか マンパワーの確保ができたか 受診勧奨通知時期、訪問指導実施時期は妥当か</p>	<p>予算の配分は適当であったか マンパワーの確保ができたか 受診勧奨通知時期、訪問指導実施時期は妥当か</p>		
<p>プロセス</p>	<p>受診勧奨通知時期、訪問指導実施時期が適当であったか 対象者の抽出が確実にできたか 通知内容は適当であったか 訪問指導の内容は適当であったか 実施後の評価ができたか</p>	<p>受診勧奨通知時期、訪問指導実施時期が適当であったか 対象者の抽出が確実にできたか 通知内容は適当であったか 訪問指導の内容は適当であったか 実施後の評価ができたか</p>		
<p>プアット</p>	<p>対象者への通知率 訪問指導実施者数</p>	<p>100% 50人</p>	<p>100% 50人</p>	<p>100% 50人</p>
<p>アウトカム</p>	<p>医療機関受診率</p>	<p>50%</p>	<p>50%</p>	<p>50%</p>
<p>年度計画</p>	<p>令和3年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診の結果から、異常値がある対象を選定し、医療機関受診の有無を確認 ・受診を確認できない対象者へ受診勧奨通知を送付 ・送付後2～3カ月後にレセプトにて受診の有無を確認 ・受診がない対象に訪問指導を実施 ・実施後、レセプトにて受診の有無を確認 		
	<p>令和4年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・継続実施 		
	<p>令和5年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・継続実施 		

5.糖尿病予備群対策

(1)事業内容

背景	<ul style="list-style-type: none"> ・医療費の状況では、高血圧症、糖尿病、腎不全が高い。 ・患者数は、筋骨格、高血圧症、脂質異常症、糖尿病が多く、令和元年度は、脂質異常、糖尿病が増加している。
目的	糖尿病予備群の減少 糖尿病患者の適正受診
事業内容 具体的な	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診の結果から、糖尿病予備群の対象者に市内医療機関の糖尿病教室案内通知と糖尿病啓発を実施 ・市主催の糖尿病予防教室開催（市保健師、市立病院スタッフと連携） 内容：測定会（血糖値測定・HbA1c測定・血管年齢測定・骨密度測定）、講演、運動
指標 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者への通知率・訪問指導実施者数 ・医療機関受診率

(2)評価と見直し・改善策

評価指標	教室参加者数	特定健診結果HbA1c7.0%以上の割合2.0%以下	
アウトプット・アウトカム	アウトプット	アウトカム	
目標値	80人以上	2.0%以下	
ベースライン(H28年度)	67人	4.1%	
経年変化	H29年度	67人	4.2%
	H30年度	201人	4.6%
	R元年度	160人	4.4%
指標判定	a	c	
事業判定	B		
うまくいった要因	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度より、市主催の糖尿病予防教室を実施した。 ・講演だけでなく、測定会を実施したことで参加者数が増加した。 ・市内医療機関との連携ができた。 		
うまくいかなかった要因	<ul style="list-style-type: none"> ・市内医療機関の糖尿病教室は治療中の人を対象であるため、参加者数が増加しなかった。 ・糖尿病予防教室は、参加者が多かったため、全員に測定を実施することができなかった。 		
見直しと改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関の糖尿病教室の内容確認 ・糖尿病予防教室の内容見直し ・評価指標に、医療機関受診率を設定していたが、対象者が糖尿病予備群であることから削除する。 		

(3)今後の事業計画

<p>具体的な事業内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診の結果から、糖尿病予備群の対象者に市内医療機関の糖尿病教室案内通知と糖尿病啓発を実施 ・市主催の糖尿病予防教室開催（市保健師、市立病院スタッフと連携） 内容：測定会、講演、運動 			
評価指標		目標値		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
ストラクチャー	<p>予算の配分は適切であったか マンパワーの確保ができたか 他部門との連携が可能か 開催時期、会場確保が可能か</p>	<p>予算の配分は適切であったか マンパワーの確保ができたか 他部門との連携が可能か 開催時期、会場確保が可能か</p>		
プロセス	<p>開催時期は適切であったか 会場は適切であったか 対象者の抽出が確実にできたか 通知内容は適切であったか 進行はスムーズに行えたか</p>	<p>開催時期は適切であったか 会場は適切であったか 対象者の抽出が確実にできたか 通知内容は適切であったか 進行はスムーズに行えたか</p>		
プアット	<p>教室参加者数</p>	80人	80人	80人
アウトカム	<p>特定健診結果HbA1c7.0%以上の割合 2.0%以下</p>	2.0%以下	2.0%以下	2.0%以下
年度計画	令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診の結果から、糖尿病予備群の対象者に市内医療機関の糖尿病教室案内通知と糖尿病啓発を実施 ・市主催の糖尿病予防教室開催 		
	令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・継続実施 		
	令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> ・継続実施 		

6.糖尿病治療中断者受診勧奨

(1)事業内容

背景	<ul style="list-style-type: none"> ・医療費の状況では、高血圧症、糖尿病、腎不全が高い。 ・患者数は、筋骨格、高血圧症、脂質異常症、糖尿病が多く、令和元年度は、脂質異常、糖尿病が増加している。
目的	糖尿病治療中断者の減少と病気進行阻止
事業内容的な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・かつて糖尿病で受診していたが、その後受診を中断した対象者を特定し、受診勧奨通知とアンケートを送付 ・対象者の抽出は、国保連合会に依頼 ・通知後、医療機関受診の有無をレセプトにて確認 ・受診がない対象者に指導実施
指標評価	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者への通知率 ・医療機関受診率

(2)評価と見直し・改善策

評価指標		対象者への通知率	医療機関受診率
アウトプット・アウトカム		アウトプット	アウトカム
目標値		100%	50%以上
ベースライン(H28年度)		-	-
経年変化	H29年度	-	-
	H30年度	100%	34.7%
	R元年度	100%	53.8%
指標判定		b	b
事業判定		B	
うまくいった要因		<ul style="list-style-type: none"> ・対象者の抽出を国保連合会に依頼することで、的確に行えた。 ・アンケートを実施することで、糖尿病啓発ができた。 	
うまくいかなかった要因		<ul style="list-style-type: none"> ・不在や電話番号不明で指導できなかった。 ・後期高齢者医療制度に移動している対象者が多く、指導できなかった。 	
見直しと改善策		<ul style="list-style-type: none"> ・対象者の抽出方法 ・案内通知、アンケートの内容の見直し 	

(3)今後の事業計画

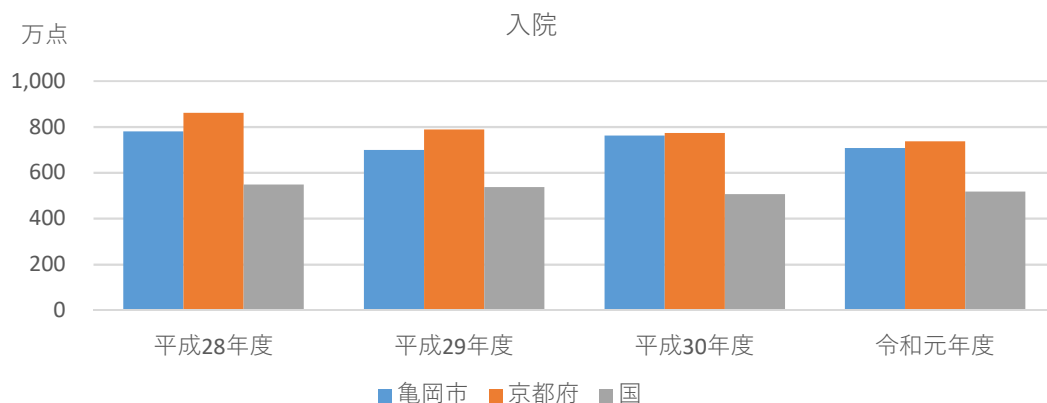
<p>具体的な事業内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・かつて糖尿病で受診していたが、その後受診を中断した対象者を特定し、受診勧奨通知とアンケートを送付 ・対象者の抽出は、国保連合会に依頼 ・通知後、医療機関受診の有無をレセプトにて確認 ・受診がない対象者に指導実施 			
<p>評価指標</p>		<p>目標値</p>		
		<p>令和3年度</p>	<p>令和4年度</p>	<p>令和5年度</p>
<p>ストラクチャー</p>	<p>予算の配分は適当であったか マンパワーの確保ができたか 他部門との連携が可能か</p>	<p>予算の配分は適当であったか マンパワーの確保ができたか 他部門との連携が可能か</p>		
<p>プロセス</p>	<p>対象者の抽出が確実にできたか 通知内容は適当であったか</p>	<p>対象者の抽出が確実にできたか 通知内容は適当であったか</p>		
<p>プアット</p>	<p>対象者への通知率</p>	<p>100%</p>	<p>100%</p>	<p>100%</p>
<p>アウトカム</p>	<p>医療機関受診率</p>	<p>50%以上</p>	<p>50%以上</p>	<p>50%以上</p>
<p>年度計画</p>	<p>令和3年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・かつて糖尿病で受診していたが、その後受診を中断した対象者を特定し、受診勧奨通知とアンケートを送付 ・対象者の抽出は、国保連合会に依頼 ・通知後、医療機関受診の有無をレセプトにて確認 ・受診がない対象者に指導実施 		
	<p>令和4年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・継続実施 		
	<p>令和5年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・継続実施 		

7.糖尿病腎症重症化予防（糖尿病サポート事業）

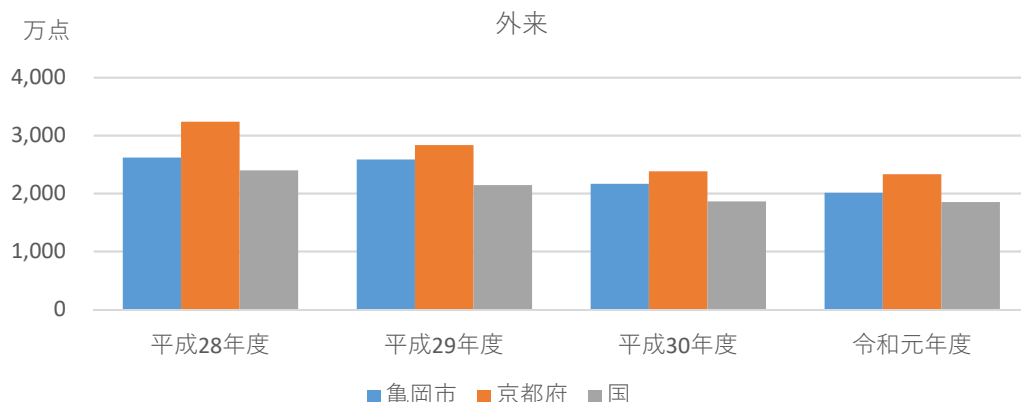
(1)事業内容

背景	<ul style="list-style-type: none"> 慢性腎不全の総医療費の占める割合は、平成28年度5.0%、平成29年度4.7%、平成30年度4.3%、令和元年度3.9%である。 糖尿病の総医療費の占める割合は、平成28年度5.6%、平成29年度5.8%、平成30年度4.7%、令和元年度4.5%である。 慢性腎臓病（透析あり）の1保険者当たり総点数は、京都府に比べて低いが、国に比べ高い。 透析患者数は、平成28年度59人、平成29年度56人、平成30年度53人、令和元年度56人（KDBより）である。
目的	糖尿病患者の病気進行阻止
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 特定健診の結果から、糖尿病治療中かつ基準値を超えている対象者を抽出し、事業案内を送付 かかりつけ医の指示のもと市保健師が生活習慣などの保健指導を実施 かかりつけ医に指導報告を行う
指標	<ul style="list-style-type: none"> 利用者数 検査データ、糖尿病腎症病期、CKD重症度分類、eGFR低下率

1保険者当たり総点数（慢性腎臓病透析あり）



1保険者当たり総点数（慢性腎臓病透析あり）

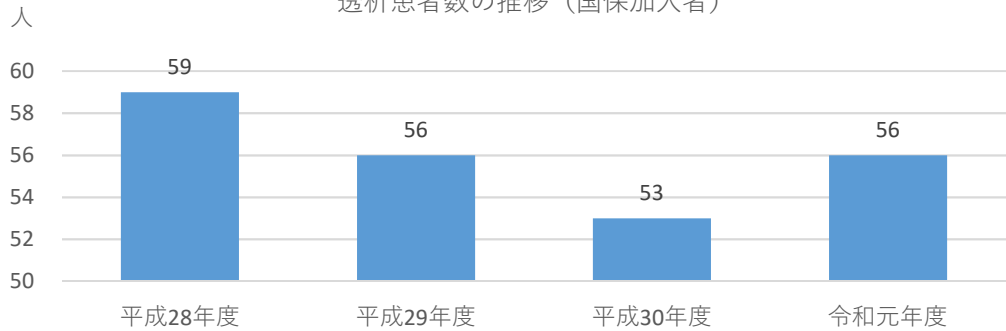


※KDB：医療費分析（1）細小分類より

(2)評価と見直し・改善策

評価指標	利用者数	検査データ(HbA1c・血圧) 糖尿病腎症病期 C K D重症度分類 eGFR低下率
アウトプット・アウトカム	アウトプット	アウトカム
目標値	20人	維持改善率50%以上
ベースライン(H28年度)	-	-
経年変化	H29年度	-
	H30年度	6人
	R元年度	20人
指標判定	a	a
事業判定	A	
うまくいった要因	<ul style="list-style-type: none"> ・亀岡市糖尿病重症化予防会議で、市医師会、保健所、糖尿病専門医と情報共有し、連携ができた。 ・保健指導教材の工夫（塩分濃度測定、食塩味覚度チェックなど） 	
うまくいかなかった要因	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度は、申し込み方法がわかりにくく指導開始に時間がかかった。 ・糖尿病の専門的な知識が必要なため、保健指導の内容の構築が難しかった。 ・最終評価で、検査データの把握ができない人がいたため評価できなかった。 ・対象者の次年度のフォローをどうしていくのが課題 	
見直しと改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・案内通知の内容の見直し ・保健指導内容の構築とかかりつけ医との連携確認 ・アウトプット評価指標を京都府の基準に変更し、維持改善率の目標値を設定する。 ・保健指導修了者のフォローについて衛生部署と検討する。 ・保健指導修了者の健診結果を継続して把握していく。 	

透析患者数の推移（国保加入者）

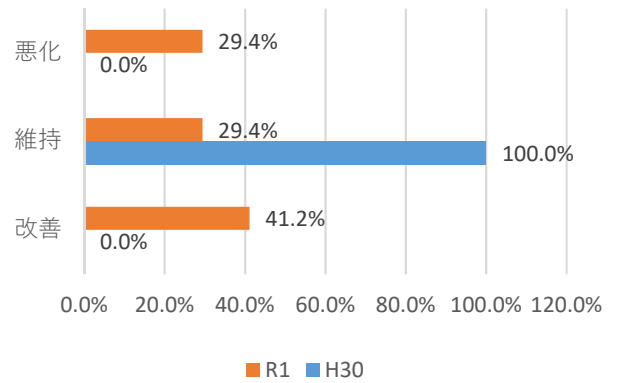


※KDB：市区町村別データより

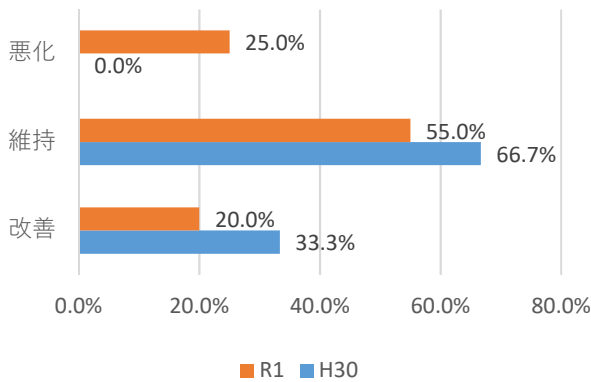
サポート事業利用状況

	平成30年度	令和元年度
対象者数	12人	103人
実施者数	6人	20人

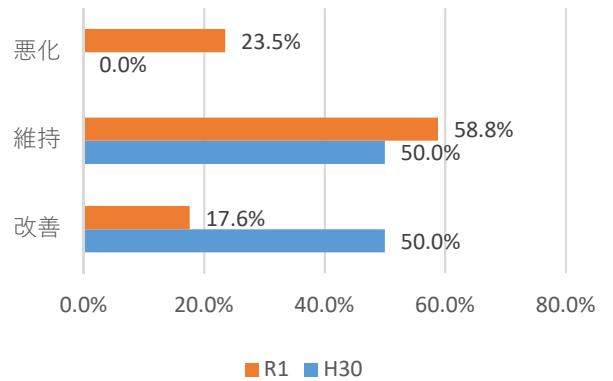
介入後のHbA1cの変化



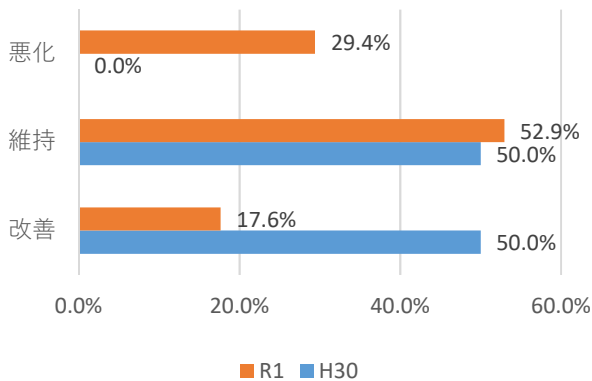
介入後の血圧の変化



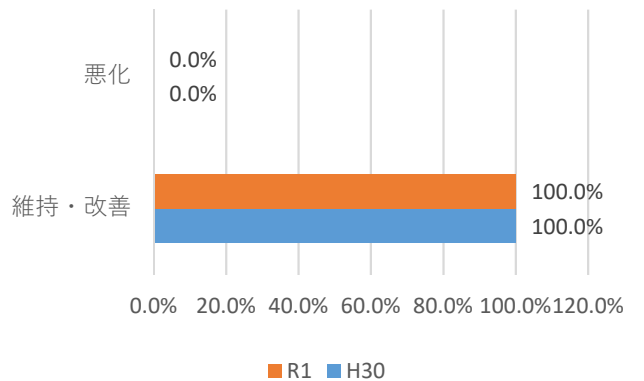
介入後の糖尿病性腎症病期の変化



介入後のCKD重症度分類の変化



介入後のeGFRの変化率



(3)今後の事業計画

<p>具体的な事業内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診の結果から、糖尿病治療中かつ基準値を超えている対象者を抽出し、事業案内を送付 ・かかりつけ医の指示のもと市保健師が生活習慣などの保健指導を実施 ・かかりつけ医に指導報告を行う 			
<p>評価指標</p>		<p>目標値</p>		
		<p>令和3年度</p>	<p>令和4年度</p>	<p>令和5年度</p>
<p>ストラクチャー</p>	<p>予算の配分は適切であったか マンパワーの確保ができたか 他部門との連携が可能か</p>	<p>予算の配分は適切であったか マンパワーの確保ができたか 他部門との連携が可能か</p>		
<p>プロセス</p>	<p>通知内容は適切であったか 他部門との連携ができたか 通知及び実施時期は適切であったか</p>	<p>通知内容は適切であったか 他部門との連携ができたか 通知及び実施時期は適切であったか</p>		
<p>アウト</p>	<p>利用者数</p>	<p>20人</p>	<p>20人</p>	<p>20人</p>
<p>アウトカム</p>	<p>維持改善率</p>	<p>50%</p>	<p>50%</p>	<p>50%</p>
<p>年度計画</p>	<p>令和3年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診の結果から、糖尿病治療中かつ基準値を超えている対象者を抽出し、事業案内を送付 ・かかりつけ医の指示のもと市保健師が生活習慣などの保健指導を実施 ・かかりつけ医に指導報告を行う 		
	<p>令和4年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・継続実施 		
	<p>令和5年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・継続実施 		

8.重複多受診者指導

(1)事業内容

背景	・重複多受診者（KDB 15日以上4医療機関受診：毎年4月）より、平成29年度4人、平成30年度2人、令和元年度3人であった。
目的	重複頻回受診者の減少
事業内容的な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・KDBにて重複多受診者の抽出を行い、レセプトにて受診状況を確認する ・訪問指導を実施 ・指導後、改善しているかレセプトにて受診状況を確認する ・医療費通知事業の際、受診医療機関が多い対象者に啓発パンフレットを同封する（令和元年度より）
指標評価	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問指導実施者率、対象者通知率 ・改善率、重複多受診者の減少

(2)評価と見直し・改善策

評価指標	指導実施率 対象者通知率	改善率 重複多受診者の減少
アウトプット・アウトカム	アウトプット	アウトカム
目標値	100% 100%	10% 重複多受診者の減少
ベースライン(H28年度)	100% (1人)	0%
経年変化	H29年度	100% (2人) 0% 増加
	H30年度	100% (3人) 0% 増加
	R元年度	100% (2人) 100% (346件) 0% 減少
指標判定	b	d
事業判定	C	
うまくいった要因	<ul style="list-style-type: none"> ・KDBから対象者を抽出することが出来るようになったため、レセプト確認等の時間が短縮できた。 ・医療費通知事業を利用することで、被保険者全員に啓発できた。 	
うまくいかなかった要因	<ul style="list-style-type: none"> ・KDBから抽出した対象者が、指導が必要ではない場合が多かった。 ・対象者が少なく、評価が困難だった。 ・指導後の受診状況の改善がみられた人がいなかった。 	
見直しと改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・指導内容の見直し 	

(3)今後の事業計画

<p>具体的な事業内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・K D Bにて重複多受診者の抽出を行い、レセプトにて受診状況を確認する ・訪問指導を実施 ・指導後、改善しているかレセプトにて受診状況を確認する ・医療費通知事業の際、受診医療機関が多い対象者に啓発パンフレットを同封する 			
<p>評価指標</p>		<p>目標値</p>		
		<p>令和3年度</p>	<p>令和4年度</p>	<p>令和5年度</p>
<p>ストラクチャー</p>	<p>予算の配分は適切であったか マンパワーの確保ができたか 実施時期は適切か</p>	<p>予算の配分は適切であったか マンパワーの確保ができたか 実施時期は適切か</p>		
<p>プロセス</p>	<p>実施時期は適切であったか 対象者の抽出が確実にできたか 指導内容は適切であったか 通知内容は適切であったか</p>	<p>実施時期は適切であったか 対象者の抽出が確実にできたか 指導内容は適切であったか 通知内容は適切であったか</p>		
<p>プアアウト</p>	<p>実施率 通知率</p>	<p>100% 100%</p>	<p>100% 100%</p>	<p>100% 100%</p>
<p>カムアウト</p>	<p>改善者率 重複多受診者の減少</p>	<p>10% 減少</p>	<p>10% 減少</p>	<p>10% 減少</p>
<p>年度計画</p>	<p>令和3年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・K D Bにて重複多受診者の抽出を行い、レセプトにて受診状況を確認する ・訪問指導を実施 ・指導後、改善しているかレセプトにて受診状況を確認する ・医療費通知事業の際、受診医療機関数が多い対象者に啓発パンフレットを同封する 		
<p></p>	<p>令和4年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・継続実施 		
<p></p>	<p>令和5年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・継続実施 		

9.重複服薬者通知事業（新規）

(1)事業内容

背景	・重複多受診者（KDB 15日以上4医療機関受診：毎年4月）より、平成29年度4人、平成30年度2人、令和元年度3人であった
目的	重複服薬の解消により、被保険者の健康被害の抑制と医療費適正化を図る
事業内容的な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・京都府重複服薬者抽出ツールに基づき、国保連合会に抽出依頼 ・対象者に通知文を送付し、かかりつけ薬局で指導を受ける ・指導内容をかかりつけ薬局より受け取る ・レセプトにて受診状況を確認
指標評価	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者通知率 ・改善率

(2)評価と見直し・改善策

評価指標	対象者通知率	改善率
アウトプット・アウトカム	アウトプット	アウトカム
目標値	100%	10%
ベースライン(H28年度)	-	-
経年変化	H29年度	-
	H30年度	-
	R元年度	100%（9件）
指標判定	d	d
事業判定	E	
うまくいった要因	<ul style="list-style-type: none"> ・服薬情報を専門的な分析を行うことで対象者を抽出することができた ・かかりつけ薬局と連携することができた 	
うまくいかなかった要因	<ul style="list-style-type: none"> ・通知内容がわかりにくい ・通知後の回答がなく、評価できなかった 	
見直しと改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・通知内容の見直し 	

(3)今後の事業計画

<p>具体的な 事業内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・京都府重複服薬者抽出ツールに基づき、国保連合会に抽出依頼 ・対象者に通知文を送付し、かかりつけ薬局で指導を受ける ・指導内容をかかりつけ薬局より受け取る ・レセプトにて受診状況を確認 			
<p>評価指標</p>		<p>目標値</p>		
		<p>令和3年度</p>	<p>令和4年度</p>	<p>令和5年度</p>
<p>ストラクチャー</p>	<p>予算の配分は適切であったか マンパワーの確保ができたか 実施時期は適切か 他部門との連携は可能か</p>	<p>予算の配分は適切であったか マンパワーの確保ができたか 実施時期は適切か 他部門との連携は可能か</p>		
<p>プロセス</p>	<p>実施時期は適切であったか 対象者の抽出が確実にできたか 他部門との連携ができたか 通知内容は適切であったか</p>	<p>実施時期は適切であったか 対象者の抽出が確実にできたか 他部門との連携ができたか 通知内容は適切であったか</p>		
<p>プアット</p>	<p>通知率</p>	<p>100%</p>	<p>100%</p>	<p>100%</p>
<p>アウトカム</p>	<p>改善者率</p>	<p>10%</p>	<p>10%</p>	<p>10%</p>
<p>年度計画</p>	<p>令和3年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・京都府重複服薬者抽出ツールに基づき、国保連合会に抽出依頼 ・対象者に通知文を送付し、かかりつけ薬局で指導を受ける ・指導内容をかかりつけ薬局より受け取る ・レセプトにて受診状況を確認 		
	<p>令和4年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・継続実施 		
	<p>令和5年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・継続実施 		

10.健康ポイント事業（新規）

(1)事業内容

背景	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診受診率、特定保健指導実施率が低い。 ・糖尿病重症化予防事業の参加者が少ない。
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・個人へのインセティブを提供することで、健康に対する問題意識を喚起し、行動変容につなげる。 ・特定健診の受診率向上につなげる。
事業内容 具体的な	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診受診券送付時に案内を同封する。 ・申込者に健康に関するアンケートを実施 ・健診受診、健康教室やイベントへの参加、健康目標を立て実践することでポイント付与（10ポイント以上で申込可） ・ポイント数に応じて参加賞を贈呈する。
指標 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・実施者数 ・参加者の健診結果改善率

(2)評価と見直し・改善策

評価指標		実施者数	参加者の健診結果改善率
アウトプット・アウトカム		アウトプット	アウトカム
目標値		150人	増加
ベースライン(H28年度)		-	-
経年変化	H29年度	6人	-
	H30年度	62人	-
	R元年度	94人	-
指標判定		a	d
事業判定		B	
うまくいった要因		<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度から特定健診受診券に申込書を同封したことで申込者が増えた。 	
うまくいかなかった要因		<ul style="list-style-type: none"> ・申込者はリピーターが多く、健康無関心層への働きかけにつながらない。 ・アウトカム評価を設定していなかったため評価ができていない。 	
見直しと改善策		<ul style="list-style-type: none"> ・健康無関心層への働きかけが課題 ・アウトカム評価を設定する（特定健診結果の改善を確認） ・案内内容の見直し 	

(3)今後の事業計画

具体的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診受診券送付時に案内を同封する ・申込者に健康に関するアンケートを実施 ・健診受診、健康教室やイベントへの参加、健康目標を立て実践することでポイント付与（10ポイント以上で申込可） ・ポイント数に応じて参加賞を贈呈する。 			
評価指標		目標値		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
ストラクチャー	予算の配分は適当であったか マンパワーの確保ができたか 実施時期は適当か 他部門との連携は可能か	予算の配分は適当であったか マンパワーの確保ができたか 実施時期は適当か 他部門との連携は可能か		
プロセス	実施時期は適当であったか 他部門との連携ができたか 案内内容、時期は適当であったか	実施時期は適当であったか 他部門との連携ができたか 案内内容、時期は適当であったか		
プアット	実施者数	150人	150人	150人
アウトカム	改善者率	増加	増加	増加
年度計画	令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診受診券送付時に案内を同封する ・申込者に健康に関するアンケートを実施 ・健診受診、健康教室やイベントへの参加、健康目標を立て実践することでポイント付与（10ポイント以上で申込可） ・ポイント数に応じて参加賞を贈呈する。 		
	令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・継続実施 		
	令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> ・継続実施 		

第7章 その他の保健事業評価

事業名	目標項目		目標値	平成28年度	令和元年度	指標判定
ドック	アウトプット	新規受診者数	増加	108人	187人	a
	アウトカム	新規受診者受診率	30%	23.0%	35.2%	
ドック追跡調査	アウトプット	アンケート回収率	100%	79.6%	73.0%	c
	アウトカム	医療機関受診率	90%	55.6%	42.6%	
歯周疾患健診	アウトプット	利用者数	増加	41人	106人	b
	アウトカム	歯周疾患医療費 (1人当たり費用額※)	減少	2,025円	2,180円	
健康相談	アウトプット	実施の促進	20名	412人	408人	c
	アウトカム	利用者数	増加	5人	6人	
健康情報提供サービス	アウトプット	実施の促進	200名	104人	138人	c
	アウトカム	利用者数	増加	104人	138人	
ジェネリック医薬品差額通知	アウトプット	普及率（数量）	40%	37.3%	46.9%	a
	アウトカム	普及率（金額）	20%	14.6%	18.0%	
医療費通知	アウトプット	対象者への通知率	100%	100%	100%	d
	アウトカム	重複多受診者数	減少	-	3	
柔道整復術療養費適正化	アウトプット	対象者への実施率	100%	100%	100%	a
	アウトカム	柔道整復術多受診者数	減少	152人	117人	

※KDB：市町村別データより

第8章 計画の評価と今後について

1.計画の評価

本計画の目的及び達成状況については、引き続き進捗状況の評価を行い、進行管理及び評価・見直しを行っていきます。

計画期間の最終年度には、事業の達成状況进行评估し、その結果を生かしてより効果的な保健事業の運営を行うため、目標や取り組みの見直しを行います。評価・見直しに当たっては、亀岡市国民健康保険運営協議会や国民健康保険団体連合会に設置される支援・評価委員会等に指導助言を求め、総合的に評価を行います。

2.今後について

中間評価結果に基づき、目標達成に向けて関係機関や団体と連携を図りながら、被保険者の生活習慣等の改善や健康づくりを支援していきます。

本市の高齢化率は年々増加していくことが今後も続くと予想されます。被保険者が自らの健康づくりに積極的に取り組み、生活習慣病を予防し、重症化させないような取り組みが必要です。「健康寿命の延伸」を目指し、特定健診受診率、特定保健指導利用率の向上を始め、糖尿病重症化予防事業の更なる取り組みの強化を図っていきます。

**亀岡市国民健康保険
第2期保健事業実施計画(データヘルス計画)
中間評価**

発行 令和3年3月

亀岡市 環境市民部 保険医療課

〒621-8501 京都府亀岡市安町野々神8番地

TEL(0771)22-3131(大代表) FAX(0771)24-5501

ホームページ <http://www.city.kameoka.kyoto.jp>